

学校名：中央区立明石小学校

所在地：中央区明石町1-15

校長名：吉川 浩一

児童数：546人

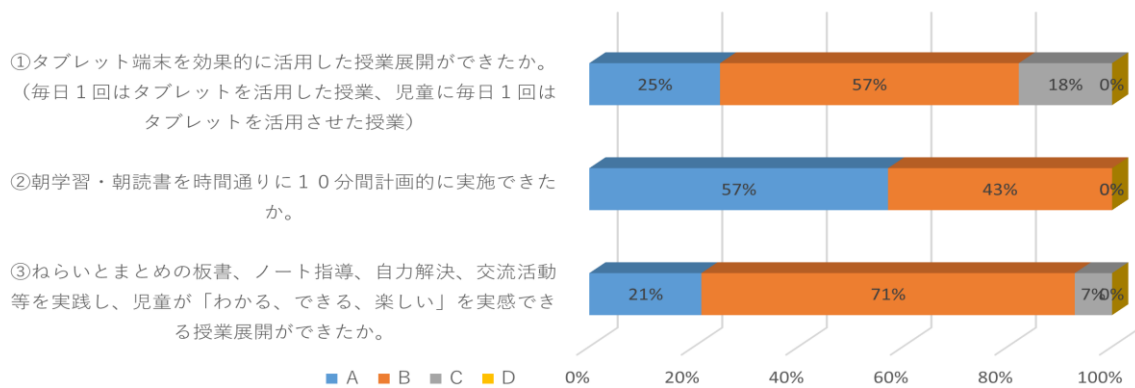
学級数 21人

教員数32人

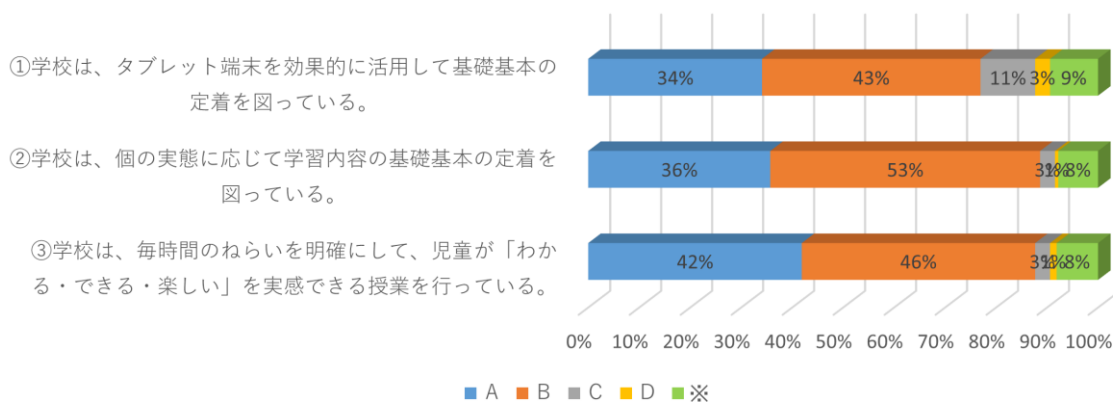
1 重点目標の達成状況及び、取組状況

重点目標 1

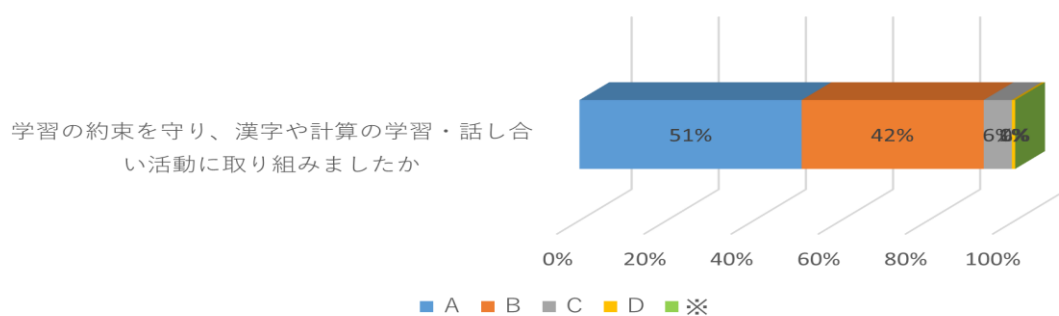
重点項目 1 教員



重点項目 1 保護者



重点項目 1 児童



重点目標 1 <確かな学力の定着・向上>

①タブレット端末を効果的に活用した授業展開ができたか。(毎日1回はタブレットを活用した授業、児童に毎日1回はタブレットを活用させた授業)《教員》

①学校は、タブレット端末を効果的に活用して基礎基本の定着を図っている。

《保護者》

「十分達成した・達成した」が教員82%・保護者77%のやや高い数値であったが、一方、「改善を要する・緊急に改善を要する」に教員の18%、保護者の14%、「分からない」に保護者の9%が回答している。昨年度よりタブレット端末が貸与され、タブレット端末を利用した授業が日常となっている。今年度は、毎月、学年ごとに、タブレット端末をどのように活用したかを報告、可視化し、教員間で共有できるようにした。教員の「改善を要する」が18%なのは、昨年度以上の効果的なタブレット端末の活用について試行錯誤したことも1つの要因として考える。よりタブレット端末活用の幅を広げ積極的に使っていく。また、保護者には、学校での様子を見ていただく機会が少ないこともあり、児童がタブレット端末を活用している姿の学校からの発信が足りないと感じている。ホームページ等を利用しながら、児童の学習の様子について発信していくようにしたい。

②朝学習・朝読書を時間通りに10分間計画的に実施できたか。《教員》

②学校は、個の実態に応じて学習内容の基礎基本の定着を図っている。《保護者》

「十分達成した・達成した」が教員100%・保護者89%の高い数値であった。教員には、朝学習・朝読書について学年で計画的に進めること、また、時間を意識して取り組むことを徹底している。また、児童に対しても、時間の大切さを指導してきた。そのため、時間を意識し、朝学習や朝読書も落ち着いて行うことが定着してきている。また、算数では、習熟度別クラス編成や放課後補習教室(夕やけ教室)を計画的に行い、個に応じた学習を行い、基礎基本の定着を図っている。また、タブレット端末のドリルソフトを活用し、今後も継続し基礎基本を定着できるよう指導をしていく。

③ねらいとまとめの板書、ノート指導、自力解決、交流活動等を実践し、児童が「わかる、できる、楽しい」を実感できる授業展開ができたか。《教員》

③学校は、毎時間のねらいを明確にして、児童が「わかる・できる・楽しい」を実感できる授業を行っている。《保護者》

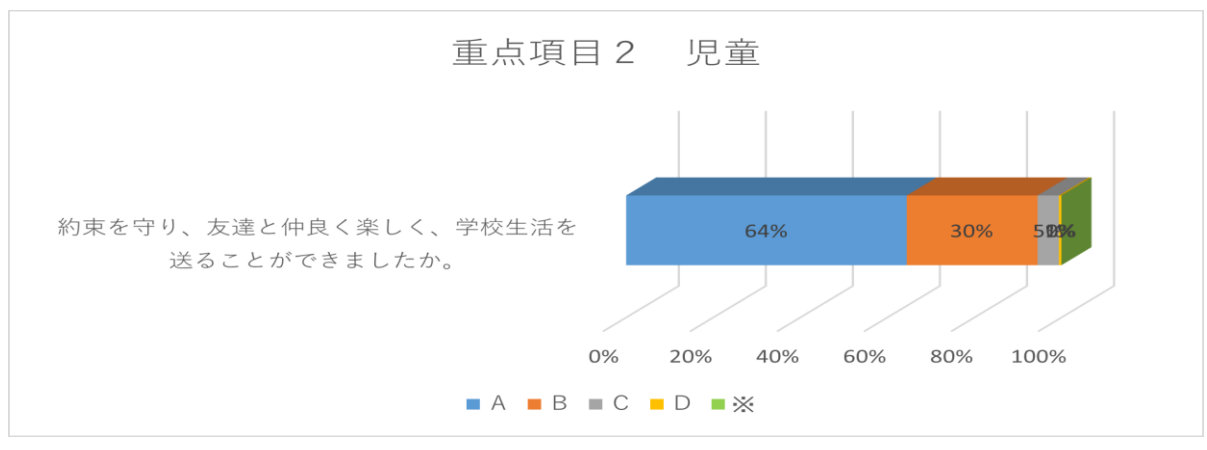
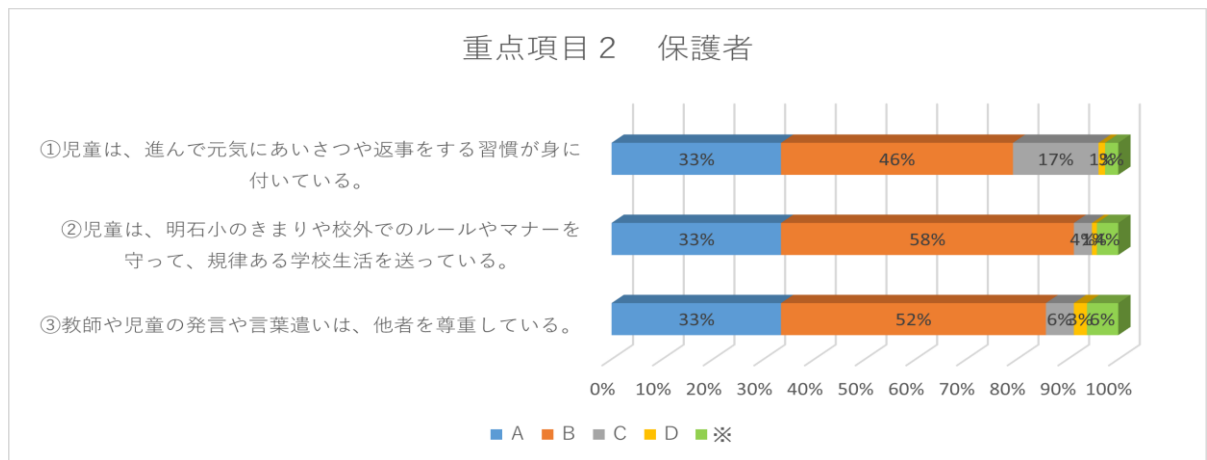
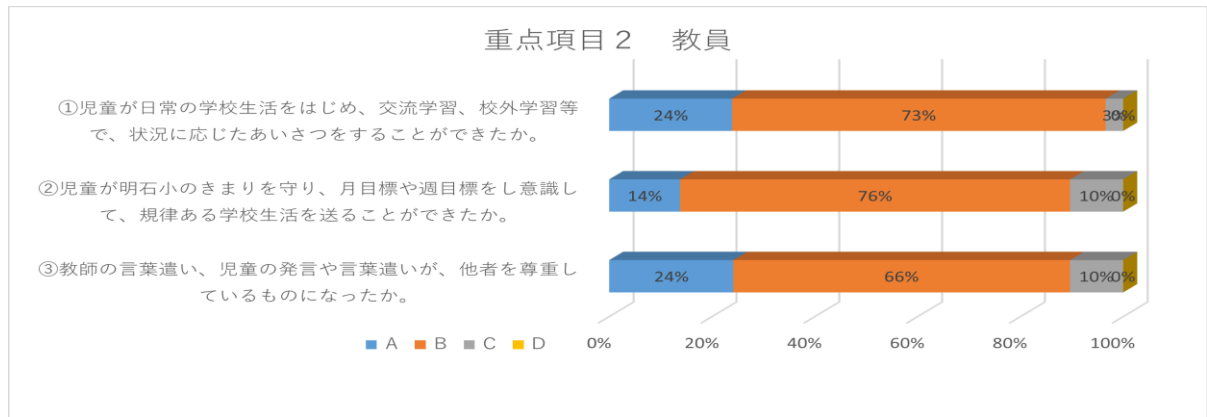
「十分達成した・達成した」が教員92%・保護者88%の高い数値であった。一方、「改善を要する・緊急に改善を要する」に教員の7%、保護者の4%、「分からない」に保護者の8%が回答している。コロナ禍における交流活動には、まだ課題もあるが、その中でも試行錯誤を重ね、解決方法を見出している。今後もさらに研修し、わかる授業、できる授業、楽しい授業をめざし、研鑽に努めていく。

④学習の約束を守り、漢字や計算の学習・話し合い活動に取り組みましたか。

《児童》

「よくできた・できた」が児童の93%の非常に高い数値であった。喜ばしいことであるが、この結果で満足するのではなく、継続できるよう指導を続けていく。また、「あまりできなかった・できなかった」児童も7%いる。誰一人取りこぼすことのないように、学習に積極的に取り組むことができていない児童へのフォローをしっかりと行い100%を目指していく。そのためにも、授業での声かけ、日々の小テストや放課後の補習教室（夕やけ教室）の活用など、できないことをできないままにさせないように、細やかに粘り強く指導していく。

重点目標2



重点目標 2 <豊かな心の育成>

①児童が日常の学校生活をはじめ、交流学习、校外学習等で、状況に応じたあいさつをすることができたか。《教員》

①児童は、進んで元気にあいさつや返事をする習慣が身に付いている。《保護者》

「十分達成した・達成した」が教員 97%・保護者 79%の高い数値であった。毎朝行っている児童による「あいさつ運動」が定着したこと、また、日々の教師による挨拶への働きかけから挨拶を意識している児童は多い。しかし、教員と保護者の意識差が大きい。学校の外では、保護者や地域の方に積極的に挨拶をするに至っていないのだと推測される。より学校全体で挨拶の習慣化に取り組んでいく必要がある。また、挨拶の習慣化には家庭の協力も欠かせない。学校内ではできている挨拶を実生活の中でも行えるように、挨拶の習慣化に向けて家庭への啓発も含め明石小全体で取り組んでいきたい。

②児童が明石小のきまりを守り、月目標や週目標を意識して、規律ある学校生活を送ることができたか。《教員》

②児童は、明石小のきまりや校外でのルールやマナーを守って、規律ある学校生活を送っている。《保護者》

「十分達成した・達成した」が教員 90%・保護者 91%の高い数値であった。昨年度より明石スタンダードと週目標を関連付けて児童に示したり、学期末に明石スタンダードの達成について児童が振り返ったりすることを継続しており、児童に自分の姿を振り返る習慣がついてきている。委員会活動などで、児童が学校のきまりや校外でのルールやマナーを守る啓発ポスターを作成し掲示するなど、児童発信の啓発活動も行われ、自分事として浸透してきている。規律ある学校生活について全校朝会の講話や日々の生活・授業などで繰り返し指導をすることで、きまりを守って生活をするものの意味や意義を理解し行動に表れていると考えている。

③教師の言葉遣い、児童の発言や言葉遣いが、他者を尊重しているものになったか。《教員》

③教師や児童の発言や言葉遣いは、他者を尊重している。《保護者》

「十分達成した・達成した」が教員 90%・保護者 85%の高い数値であった。昨年度同様、教員も児童も授業中での丁寧な言葉遣いを意識してきた。日常の授業の様子から、意識の高まりが見られる。しかし、授業以外の休み時間などでは、言葉遣いが崩れることもある。場面に応じて言葉遣いを使い分けているとも考えられる。教師が率先して模範を示し、言語環境の整備につとめていく。丁寧な言葉遣いを意識させ日常化を図り、他者理解・他者の尊重につなげたい。

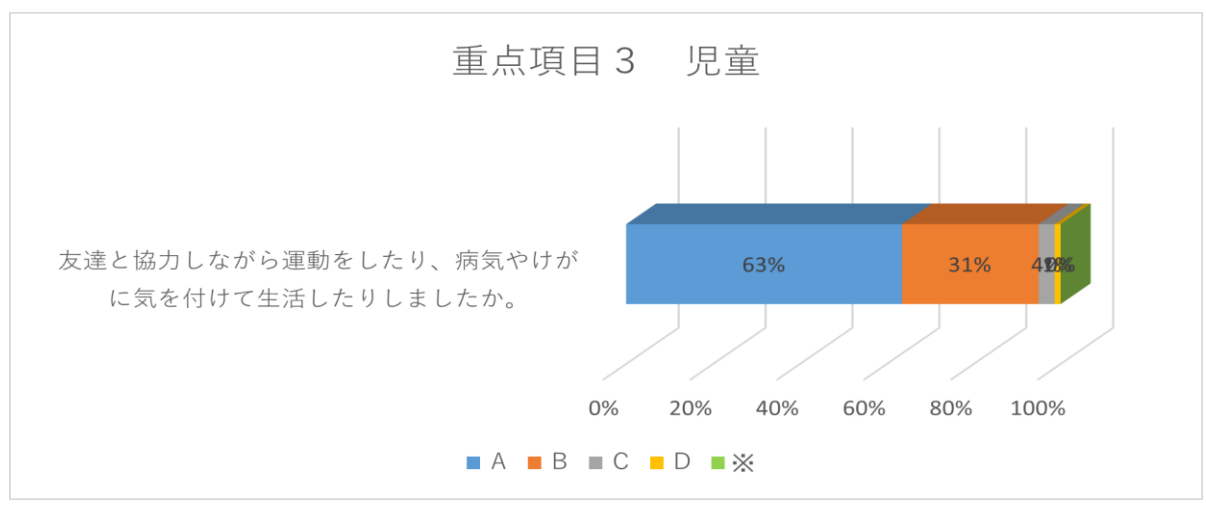
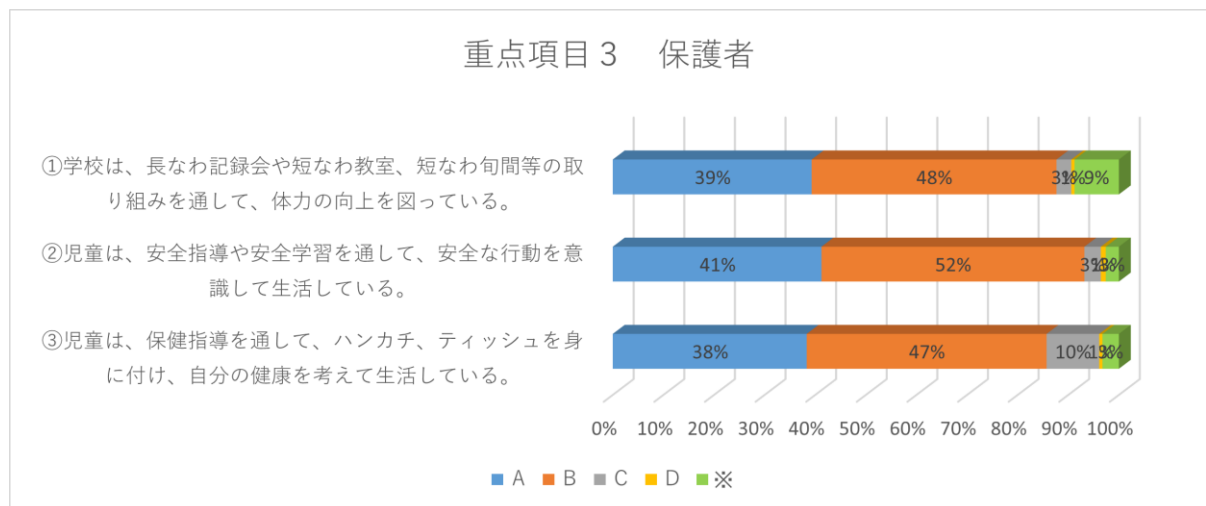
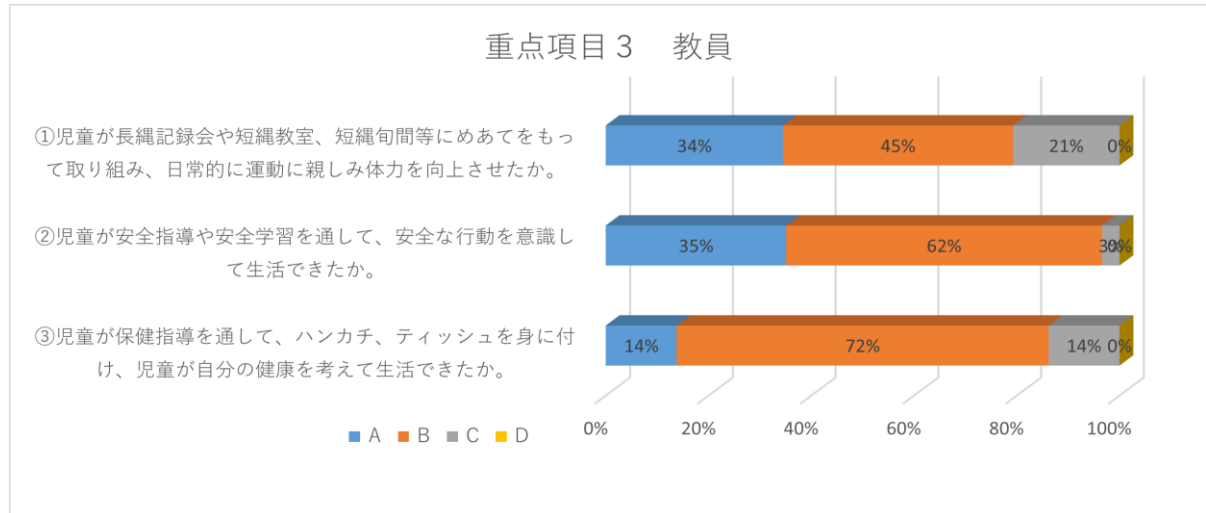
④約束を守り、友達と仲良く楽しく、学校生活を送ることができましたか。

《児童》

「よくできた・できた」が児童の 94%の非常に高い数値であった。喜ばしいことであるが、この結果で満足するのではなく、継続できるよう指導を続けていく。ま

た、6%の児童は「あまりできなかった・できなかった」と回答している楽しく学校生活を送れていない原因は何なのかをしっかりと把握し、細やかに対応することが必要である。そのためにも、今以上に児童理解を深め、100%の子どもたちが楽しいと感じることのできる学校を目指し努めていく。

重点目標 3



重点目標 3 <健康・安全教育の充実>

①児童が長縄記録会や短縄教室、短縄旬間等にめあてをもって取り組み、日常的に運動に親しみ体力を向上させたか。《教員》

①学校は、長なわ記録会や短なわ教室、短なわ旬間等の取り組みを通して、体力の向上を図っている。《保護者》

「十分達成した・達成した」が教員 79%・保護者 87%の数値であった。本校では、体育的活動の充実を目指し、長なわ旬間や短なわ旬間、短なわ教室を行っている。特にその期間は縄跳びの関心が高く、休み時間には多くの子どもたちが縄跳びに取り組んでいる。体力向上旬間では授業中に持久力を高めるダンスを行うなど体力向上の取組も行った。期間外でも関心をもたせる工夫を行い日常的に運動で行うようにしていきたい。また、多くの子どもたちが、休み時間になると校庭や体育館にて鬼ごっこやドッジボールなどよく体を動かして元気に過ごしており、遊び場の確保に努め、体力向上につながっている。今後も、授業とともに学校生活の様々な場面で体力向上につながる活動を工夫し積極的に行っていく。

②児童が安全指導や安全学習を通して、安全な行動を意識して生活できたか。《教員》

②児童は、安全指導や安全学習を通して、安全な行動を意識して生活している。《保護者》

「十分達成した・達成した」が教員 97%・保護者 93%の高い数値であった。学校では、毎月、安全指導や避難訓練を確実に実施している。安全指導では、安全指導日の朝の10分間、安全に関する問題を中心に取上げた動画や資料を活用し話し合ったり、朝の会・帰りの会、長期休業日前において繰り返し安全について指導したりしている。また、避難訓練では、地震、火災、不審者侵入など、様々な状況を設定し訓練を行っている。警察や企業といった外部機関とも連携し交通安全教室やセーフティー教室を行った。今後も、どんな時も安全な行動がとれるように考えさせ、安全に関する知識や行動の仕方など繰り返し指導し、学習・指導を通して安全に関する資質・能力の育成に努めていく。

③児童が保健指導を通して、ハンカチ、ティッシュを身に付け、児童が自分の健康を考えて生活できたか。《教員》

③児童は、保健指導を通して、ハンカチ、ティッシュを身に付け、自分の健康を考えて生活している。《保護者》

「十分達成した・達成した」が教員 86%・保護者 85%の高い数値であった。今年度も感染症対策に気を付けて生活しなければならない日が続き、手洗いの回数も増える中、児童は感染予防をしっかりと行っている。しかし、日頃の児童を見ると、手を洗った後にハンカチで拭いていない様子が見受けられる。ハンカチの所持率が低いと感じている。ハンカチを持ってはいても、ランドセルの中に入っていて、必要なときに使えないこともある。ティッシュも同様である。手を洗った後に

清潔なハンカチで手を拭けるように、学校でも、児童にハンカチ、ティッシュを身に付ける指導を続けていくとともに、家庭にも協力をお願いしていく。

④友達と協力しながら運動したり、病気やけがに気を付けて生活したりしましたか。《児童》

「よくできた・できた」が児童の94%の非常に高い数値であった。喜ばしいことである。体育や休み時間の様子を見ていても友達と仲良く過ごし、元気に体を動かして活動している。感染症対策に気を付けて生活することにも慣れ、当たり前のように感染症対策は行えている。しかし、けが等での保健室利用は多く、実生活の中では様々なけがをしているのが現状である。安全な生活についての行動規範を促すポスター作成や掲示が児童発信で行われており、安全な生活についての意識は高まっている。自らが気を付けて、健康に留意して生活できる児童を育成したい。

2 重点目標以外の自己評価における達成状況及び達成のための取組状況

《家庭や地域との連携》

今年度も引き続きコロナ禍での学校運営だったが、学校公開を3回実施することができた。また、体育学習発表会や学習発表会では保護者を学年別に参集して開催することもできた。コロナ禍により、保護者や地域の方が来校をする機会が少ない状況の中、学校や児童の様子を知ってもらいたいと、児童の学習の様子や生活がわかるような写真とともに学校からのホームページの発信を頻繁に行った。保護者アンケート「学校は行事や学校生活などを通して児童の学習の様子や生活が分かるようにしている（保護者）」の設問では、「よく当てはまる・あてはまる」の回答が高かった。今後も、児童の学習の様子や生活が分かるように学校側から情報発信を積極的に行い、家庭や地域との連携を深めていく。

3 今後の改善方策

昨年度よりタブレットにて学校評価アンケートを実施し、今年で2回目となる。アンケート回収率が全体の56%だった。学校としては、アンケート回収率を上げるために、アンケート実施方法については検討をしていくとともに、学校評価を教育活動に生かしていくためにも、保護者の方に学校評価アンケートの周知に努め協力いただけるようにしたい。今年度の明石小では「子どもたちが楽しいと感じることができる学校」をめざし教育活動を行ってきた。保護者や児童からも概ね高い評価であったが、重点目標の保護者回答で「分からない」の方が、平均すると8%となっている。Google Classroomや学校ホームページ等を活用し、学校の様子を積極的に発信に努めてきたが、さらに保護者の方に理解していただけるよう、教育活動の積極的な開放や情報発信に努めていく。